□海外文献紹介□

食道炎と食道癌

Esophagitis and cancer of the esophagus: *R. Kuylenstierna, E. Munck-Wikland* (Cancer 56: 837-839, 1985)

種々な臓器で炎症と癌の関連が問題になっている．食道でも，アカラジアの患者で食道内容の停溜による慢性の粘膜刺激や，腐蝕性食道炎による狭窄が癌の発生に関連があると考えられている．食道炎の最も多い原因は，胃内容の食道への逆流であり，この研究は逆流性食道炎と食道癌の関連を明らかにすべく計画された．

対象の食道癌163例中16例の患者が，癌の発見前数年以上にわたる食道炎歴を有し，うち13人で滑脱ヘルニアの存在が確認され，逆流性食道炎の症状を呈していた．

下部食道癌51例中13例（25%）が滑脱ヘルニアと逆流性食道炎を示したが，頸部および上部食道の癌47例では，食道炎歴を全く認めなかった．つまり食道炎患者での癌の分布は下部食道に圧倒的に多かった．

アルコールと喫煙に関しては，頸部，上中部食道癌の50%が過飲歴を有していたのに対し，食道炎歴を認めるグループでは25%と低かった．

このように下部食道癌患者では，食道炎と食道癌の一致率が25%と高く，一方，上部食道の癌患者に比べて，アルコールや喫煙の過飲者の頻度は有意に低かったことは，下部食道癌は，逆流性食道炎との関連が大きいことを強く示唆している．しかし正常群に比べると，下部食道癌患者と言えども，アルコール，喫煙の頻度は高いので，重要な関連因子であろう．

食道癌患者は，一般に高齢であるので，逆流性食道炎，アルコール，喫煙と関連があるにしろ，癌発生には長年月かかる．

さて，食道癌の予後改善のためには，高危険群を同定して早期発見法を確立することだ．1つの方法として，トルイジンブルーで生体染色し，狙撃生検を行うことを提案するが，高危険者の選別が必要で，例えば逆流疾患を有するアルコール嗜好者，あるいは消化管癌の既往があり，かつ逆流を起こす患者などを選んではどうかと述べている．

【訳者コメント】 慢性食道炎からの生検組織で，上皮の過形成を癌と疑われたりして，食道炎と食道癌の鑑別がしばしば問題になったが，逆流性食道炎が，食道癌の発生母地との考え方は薄かった．筆者らは，これから食道癌の高危険者を選別して年1回の内視鏡検査を施行し，有所見者にルゴール散布を行い，予後の良いm癌を発見しようと計画中である．逆流性食道炎は日本では頻度が低いが，私どもの研究でも高危険因子の1つとして加えてみようと思う．（愛知県がんセンター第1内科　小林世美 抄）

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2012

2026/10/13 04:17:06